

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0190400663), 法人名 (社会福祉法人杜の会), 事業所名 (福井倶楽部), 所在地 (札幌市西区福井4丁目14-18), 自己評価作成日 (平成28年10月29日), 評価結果市町村受理日 (平成28年12月8日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action kouhyou detail 2015 022 kani=true&JigyosyoCd=0170400618-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成28年11月15日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

福井倶楽部は1ユニット9名の小さなグループホームです。民家改修型で家庭的な雰囲気の中で皆様個性豊かに賑やかに過ごしております。居間からの眺望は最高で四季折々の景色を楽しみ事が出来ます。全体的に利用者の身体機能や認知能力の低下が目立ちますが町内会や学校行事は積極的に参加し今年度は全員でピクニックや外食、紅葉ドライブ等外出する機会が多くありました。地域の方には大変良くして頂き、新鮮な収穫物を頂いたりしてこちらからも行事で作ったおはぎや漬物を差し上げたりバーベキュー行事にお誘いしております。近所の小学生の訪問は定例となり一緒にお菓子を作ったりカラオケをしたりと遊び場になっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、民家を改修した2階建て1ユニットのホームで、自然豊かな高台に位置しており、居間や居室からは四季折々の移り行く自然を楽しむことができます。利用者は、夏祭り、ブドウ狩りなどの町内行事に参加するとともに、ホームのバーベキューなどには地域の人が招かれ、相互交流を深めている。近所の人々と散歩で挨拶を交わし、収穫物をいただいたりお返ししたりと、地域のひとりとして溶け込んでいる。近くの小学校の運動会・学習発表会・和太鼓演奏を見に行ったり、遊びに訪れる近所の小学生とは、お孫さんと接するような生き生きとした時間を過ごしている。また、裏庭には菜園があり、外気に触れながら、野菜の生育を眺め、新鮮な収穫物を食卓で楽しんでいる。系列施設の夏祭りには家族とともに参加し、紅葉ドライブなどの季節行事、日々の散歩、個々のニーズに合わせた買い物、喫茶店でのお茶飲みなど、豊富な外出機会に恵まれている。健康面では、協力医療機関の医師の定期的な訪問診療、看護師の訪問看護、24時間の医療との連携体制や看取り体制など、本人・家族の安心・安全な毎日を支えている。利用者が、明るく家庭的な雰囲気の中で個性豊かに過ごす毎日を、研修や勉強会で介護の知識や技術、倫理を身につけた10年以上の経験豊かな職員が、管理者を中心にチームワークよく支えている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が個性豊かに過ごせるよう日々実践しており地域との交流も積極的に行っているが、入居者のレベルの低下により難しくなってきた。ホーム内数ヶ所に理念を掲げ月に一度唱和している。	明るく家庭的な雰囲気の中で地域との交流を大切にしながら個性豊かに暮らせるよう、理念を玄関・廊下・事務室に掲示し、唱和や毎日目にする日誌の中にとじ込み、理念が実践に反映されるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加したりホームのバーベキュー行事にお誘いしている。散歩時も挨拶し合ったり収穫物頂いたりしている。最近では小学生の訪問が定着している。	町内会に加入し、町内の夏祭りやブドウ狩りへの参加、家族を交えたホームのバーベキューに地域の人を誘うなど日常的に良好な関係を築いている。音楽ボランティアの来訪、小学校の運動会、学習発表会、和太鼓演奏への参加など、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別な活動はしていないが回覧板にホーム便りを入れたり、随時見学の受入をしている。散歩や行事の時等地域の方と利用者が交流できる場はあるが極一部の方のみである。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催しておりホームの活動や事故の内容、予防策を報告している。町内会の情報を聞いたり出席者の意見を取り入れ反映させている。	数人の家族、町内会役員、包括支援センター職員が参加し、デジカメ画像を見ながらの活動状況報告、事故や予防策の報告、意見交換を行っている。町内からの行事などの情報を地域との交流に役立てている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空室状況を月一回報告している。札幌市GH管理者会議、西区GH管理者会・研修会に出席している。	今年度は、新法人への設立・移行があり、法人内の老健施設を通じ、密接な連携を取りながら手続きを進めてきた。市や区のグループホーム管理者会議、研修会には積極的に参加し、行政の情報の収集に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的に拘束になっていないかの話し合い確認をしている。玄関は建物の構造上御家族に了承の上施錠している。	「身体拘束排除マニュアル」を整備し、拘束のないケア、言葉による制止について研修・会議で話し合っている。また、接遇の自己チェック、他者チェックを職員相互で行い、ケアの向上に取り組んでいる。皆が集う居間・食堂が2階にあるため目の行き届きにくい玄関は、利用者の安全を考慮し施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度はまだ研修を受けていない。接遇に自己チェック、他者評価、面談は行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で学ぶ機会があったが活用はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解、納得をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが利用者が持って行ってしまったり機能していない。面会時や行事の時に話しやすい雰囲気を作ったり随時要望を伺っている。苦情の窓口の説明はしている。	意思疎通の出来る利用者はごく少数のため、家族の来訪時には、利用者の近況報告や日常の話題で話しやすい雰囲気の中から意向を伺ったり、相談するよう心掛けている。また、毎月、お便りで意見・要望を出されるよう求めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	系列施設で月一回運営会議があるが出席出来ない事がある。	職員は、勤続10年以上の気心の知れた人ばかりで、会議の中はもとより、引継ぎ時など日常会話で随時意見・提案が出されており、管理者も、まずやってみて良し悪しを判断する方針を取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給制度、雇用条件の変更や寒冷地手当有。人事考課制度導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は今年度中に全員受講予定。系列施設の内部研修は月一回参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区GH内の研修や合同の行事があるが管理者が主で職員は少ない。前年度一度交流する機会があったが今年度はまだない。11月に他のGHを見学する予定あり。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族を通して本人と最良の関係が作れるよう要望を聞きアセスメントを行い理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を傾聴し良好な関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用も視野に入れ必要としている支援を見極めているが現在他のサービスを利用している方はいない。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全体的にレベルの低下が著しく介護量は増えてきているが日常的に会話や作業の中で一緒に楽しんだり安心感を得られるよう良好な関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と過ごす時間を大切にしている。職員の適度な介入により無理せず本人を支えていける様見守っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会は数名あったが少なくなってきている。馴染みの場所に出向く事は殆どない。	地域からの利用者が多く、馴染みの店や病院を利用している。近所にある神社への初詣や祭り、神宮での相撲見物など、これまでの習慣や関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支え合うのは難しい状況だが利用者同士の関係を把握し適度に関わりながら安心して過ごせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在相談や支援はしていないが必要があればいつでも対応していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を第一に支援してきたがそれぞれの希望を把握するのが難しい状況である。試行錯誤の日々の中で本人本位に検討を重ねている。	本人の希望を把握するのがだんだん難しくなってきたが、家族からの情報、日々の会話の中から希望や意向を記録に残し、職員の共有を図っている。本人の情報は、センター方式により把握しており、随時その見直しを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から情報を聞き把握に努め、今までの生活環境を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を繰り返し職員間で細かく情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に本人、家族、職員の意見や要望を取り入れ介護計画を作成しているが本人との話し合いは難しくなっている。	本人や家族の意向、医師や看護師の意見を取入れ介護担当者とケアマネージャーで介護計画原案を作成し、他の職員を交えたケア会議で検討している。定期的なモニタリングで見直しや変更を行い、現状に即した介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や発言した言葉、変化や気づき、ケアのポイントを記録に記載し職員間で情報を共有し意見を出し合い介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況により都度柔軟な支援に取り組めるよう心掛けている。家族だけでは受診が困難な場合は職員が同行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	身体機能の低下の為地域の資源の活用は減ってきているが出来る範囲で行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのかかりつけ医の定期的な往診かそれぞれのかかりつけの病院の受診をしている。ホームのかかりつけ医は緊急時24時間対応している。	協力医療機関の往診が月2回、系列施設からの訪問看護師が月1~2回来ている。かかりつけ医の受診で、家族が対応できない時は職員が受診支援している。医師、看護師との24時間連携体制、看護師資格を持つ介護職員の配置により適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師や系列施設からの訪問の看護師に日々の状態を伝え適切なアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度は1名の方が3回入院した。早期退院に向け情報交換やお見舞いに行き病院関係者や家族と相談を行った。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今現在対象者はいないが、ADLが低下した時点で介護計画を変更し家族の意向を伺い相談、話し合いを行っている。	契約時に「重度化した場合の指針」を説明し、同意を得ている。これまでに看取りの経験もあり、利用者が高齢化やADLの低下がみられることから、職員は研修や勉強会で学び、医療機関との24時間連携体制をとるなど、安心できる体制を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	10月に緊急時の内部研修が系列施設であり5名受講予定。全員が定期的な訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っている。両隣りの家の方には協力をお願いしている。災害グッズや非常食は常備しており随時確認している。	消防署の協力のもと、夜間を想定した避難訓練を年2回、地震訓練を1回行っている。非常時連絡網で地域の人々との協力体制を築いている。また、水、食糧などの備蓄も備えている。	防災訓練の実施など災害発生時の対応を図っているが、冬期間に発生した場合の暖房対策、停電対策など他の事態も想定した備蓄の再点検を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に一人ひとりの人格を尊重する対応に心掛けている。年に二回の接遇の自己チェックを行っており振り返る機会を設けている。	トイレ誘導にはトイレと言う言葉を使わず耳元で、洗面や散歩に誘ったり、入浴時にはカーテンでプライバシーを守るなど、一人ひとりの尊厳を大切に、プライドを傷つけることが無いよう配慮しながら支援している。自己チェック表を元に、気を付けること、出来ないことの原因、改善の方法を議論し、より良いケアの実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの工夫や時間を掛ける事により自己決定出来るよう支援しているが認知機能の低下により難しい事が多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	焦らず出来る限り一人ひとりのペースに合った支援に心掛けているが業務が優先になってしまう事もある。外出の希望は随時対応出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みを把握し持っている物の中で出来る限りその人らしいおしゃれができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、片付けは出来る人が著しく減ってしまい現在2名程である。行事食や誕生日食、旬の食材を積極的に取り入れたり工夫しているが食事中うるさくなり、落ち着かない雰囲気になる事がある	会話の中から、利用者の好みや旬の物を献立に取り入れ、職員が食材を買い出し、出来る利用者とともに食事作りを行っている。菜園での採り立ての野菜を加えたり、行事食、外食、公園でのお弁当など食事を楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	随時一人ひとりに合わせた食事形態や食器、水分量の確保に努めている。現在ミキサー、キザミ食の方は2名いる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時全員 昼食後2名行っている。1名は自立しており随時行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄チェック表を基に一人ひとりの排泄パターンは把握し対応している。オムツ類の検討は随時行ったり自排尿を促したり本人の言葉を聞き逃さない様にし自立に向けて支援をしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの自立排泄に向けて支援している。オムツはなるべく減らすよう検討し、適切な声掛け誘導に努めている。3か所あるトイレは、使いやすく清潔に保たれ、プライバシーに配慮した配置となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の摂取や下剤で調整しているが便秘がちになる事が増えてきている。トイレで時間をかけて腹部マッサージをしたりウォシュレットを使用して排便を促す事もある。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回午後から入浴しているが、希望があれば随時対応している。1名希望により曜日固定。本人の希望を尊重しタイミングに合わせて入浴剤を使用したり歌ったりと楽しんでいる。	週2回の入浴を基本としているが、個々の希望に沿うよう努めている。安全・安心のための職員2人、3人による介助、浴室の床暖房の採用、体調に合わせたシャワー浴や清拭、入浴剤の使用など、安全・快適な入浴となるよう心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中寝たい時は各々自由に休息して頂いている。就寝時間は個別に対応している。寝具や寝巻は常に清潔にしており気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録のファイルに処方箋を保管しており、いつでも確認できるようにしている。服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり自己決定を優先に希望に沿って支援しているが自己決定が困難になってきている。少しでも気分転換が出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、買物、夕食、町内行事等それぞれのレベルに合った外出の支援をしている。今年度は全員での外出も数回行えた。	天気の良い日の毎日の散歩、個々の希望に沿った買い物、夏祭りや紅葉ドライブなど季節に合わせた行事外出、夕食など積極的に取り組んでいる。菜園での各種野菜やくだものの栽培は、生育の楽しみ、手軽な外気浴の機会となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前はお金を所持していた方はいたが困難になってしまい現在は無い。買い物の時にお財布からお金を出してもらい支払いをってもらう事はある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1名のみ家族専用の携帯電話を所有している。その方以外は電話も手紙も困難な状態である。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除、換気をしており清潔にしている。異食する方が多く装飾品が置けなくなっているが、写真や手作りカレンダーを貼ったり、窓から朝顔が見える等して季節感を出せる様になっている。奇声をあげる方が居る為随時対応しているが他者に不快感を与えてしまう事もある。	民家改造型のホームは、玄関・居間・食堂・廊下などがゆったりとしており、家庭的な安らぎのある雰囲気を漂わせている。温度・湿度は程よく管理され、窓からの景色は、四季折々の移り変わりを感じさせてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間兼食堂に1人、2~3人掛けソファやテーブル座布団を配置しそれぞれが好きな場所で思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みの物や好みの物を持ってきて頂きそれぞれ個性的な部屋になっているが自室が認識出来ない方もいる。	居室には、テレビ、人形、仏壇など思い思いの物を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。冷暖房が完備され 職員の支援を受けての毎日の掃除により快適・清潔な生活の場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	民家改修型の為段差や階段があるが日々の生活の中で機能の維持に繋がっている。手すりや貼り紙等で出来るだけ自立して生活が送れる様工夫しているが貼り紙が理解出来る方は数名のみ		